



境広志 学生部長退任のご挨拶



みなさまこんにちは、学生部長の境です。これまで6年間、学生部長を務めさせていただきましたが、2022年3月で退任することになりました。本日まで長きにわたり役職を務めさせていただくことができましたのも、みなさまのご協力のおかげと深く感謝しております。OBOG 会長連絡協議会のみなさまとも、2016年の総会以降、さまざまな場面でお付き合いをさせていただきました。母校成蹊を愛するOBOGの方々との打ち合わせや語らいを通じて、私自身もたくさんの経験をさせていただきました。また、たくさんの要望や願いや悩み事などを伺って参りました。この6年間でどのくらいのことを実現できたのかはわかりませんが、成蹊大学の課外活動団体は、今もしっかりと前進を続けていると思っています。課外活動団体の活躍と今後の発展は、現役部員の頑張りりと、OBOGの方々与学生部のサポートがあってこそだと考えます。OBOG 会長連絡協議会も「連合会」という形で組織、運営をますます強化していくと伺っております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。そして、課外活動団体のすべての学生たちの活躍に期待をしています。ありがとうございました。

寄稿 学生部長 境 広志

伊藤克容 学生部長就任ご挨拶



学生部長を拝命致しました、経営学部教授伊藤克容です。大学では、体育会バスケットボールに入部し、入学から4年秋のリーグ戦まで、汗だくになって、ボールを追いかけて、体育館を走っていました。残念ながら優秀な選手とはとても言えませんでした。たくさんのひとから刺激を受け、応援してもらいました。ふりかえってみると、人生でもっとも楽しく、実りの多い時間だったかもしれません。学生スポーツによる人材育成効果は計り知れないほど大きく、部活動の魅力は語りつくせないと考えています。

現在、大学教育では、主体的な学びである「アクティブ・ラーニング」が注目されています。アクティブ・ラーニングとは、一方的に聴いているだけの受け身の学習ではなく、自らの関心、興味、意欲によって駆動される、主体的な学習活動です。グループワークやディベートが典型例とされますが、本学のように学生主体で運営される部活動では、以前から、効果的に認知的、倫理的、社会的なスキルが涵養されてきたのではないのでしょうか。ガバナンス、コンプライアンス、エビデンス重視など、部活動のありかたも変容を余儀なくされていますが、優れた要素を維持し、時代にあわせて、素晴らしい学びの場を提供したいと思っています。

寄稿 新学生部長 伊藤 克容

「快挙！ 剣道七段に合格！！」

土屋理紗さん（1997年卒）が、昨年11月23日の審査で七段に合格されました。心よりお祝いを申し上げます。コロナ禍で我慢の日々が続きますが、多くの方々に今回の快挙を知っていただこうと思い寄稿を思い立ちました。



2019年、八段を目指す姿がテレビ放映された根本道世さん（日体大OG）に、ご記憶のある方もおられると思います。彼女が七段を取得したのは平成7年。当時女性七段は全国で4名だけでした。合格後「女性の七段は男性の八段と同等だよ」と声を掛けられたとのこと。その時、根本さんは、その意味が理解できませんでした。

さて10年後に八段受審資格が到来、この言葉が八段挑戦を断念させるため、彼女に引導を渡す意味であった、と教えられたそうです。

そんな時代を経て、昨今、女性七段の合格者が増えてきました。とは言え、剣道は男女の区別なく、審査は年齢順で受けます。

土屋さんの合格した四十代は男性受審者

比率も高く、強敵揃いと拝察します。その男性猛者と対戦しての合格です。見事の一言に尽きます。

第59回全日本女子剣道大会（2021年3月開催）で、土屋さんがお手本となる日本剣道形を演武で披露しました（現在もYouTube視聴可能）。今回、七段合格のお名前を拝見し、あの剣道形の様な立派な立会いをされたのだ、と思い描きました。



現在も女性八段は誕生しておらず、実質的に七段は女性最高位である事、厳然たる事実です。

この度の快挙、誠におめでとうございました。今後の益々のご活躍を祈念申し上げます。

寄稿 蹊剣会 矢野 昌成（1976年卒）

ラグビーフットボール部 新年度強化団体に選出され抱負を語る



成蹊会スポーツ振興第四期特別強化指定団体にご認定くださり篤く御礼申し上げます。

関東大学対抗戦Aグループ再昇格を目標に、ご支援をしっかりと活用して良いチームを作って参ります。

2021年度シーズンは、コロナ禍の中、学園・大学の大きなご理解をいただき感染防止準備をしっかりと目標達成に向けグラウンド練習に励み、対抗戦Bグループ全勝優勝を果たし立教大学との入替戦に臨みました。残念ながら勝利を得ることができませんでしたが、学園・大学関係者をはじめ小学生～高校生、大学在校生、父兄・卒業生と多くの皆様にご観戦応援をいただきました。学生達への力強い応援をいただくとともに、まさにオール成蹊のスポーツの日となったことをうれしく思い感謝いたします。

2022年度シーズンは、山崎大樹監督（1985年卒）・伊藤大吉主将（桐蔭学園高校）体制の下、「RISE」をスローガンに「Bグループ全勝優勝・Aグループ昇格」を目標に3月5日より活動を開始しました。本年度は規制無く、皆様の熱い応援のもと選手たちがのびのびとプレーを行えることを祈っております。

2023年には創部100周年を迎えます。グラウンドで活躍することはもちろん、ラグビーに懸命に取り組むことにより社会に通用する優秀な成蹊人を輩出する努力を続けます。

今後とも、応援ご声援くださいますようお願い申し上げます。

今後とも、応援ご声援くださいますようお願い申し上げます。

今後とも、応援ご声援くださいますようお願い申し上げます。

寄稿 ラグビーフットボール部 現役強化委員長 八木 忠則（1976年卒）

蹴球部 新年度強化団体に選出され抱負を語る



この度は第4期体育会強化指定団体に引き続き選定いただき有難うございます。

この場をお借りして成蹊会に対し厚く御礼申し上げますとともに、体育会の代表として他部の見本となるよう、より一層気を引き締め活動していきたいと思っております。何卒宜しくお願い致します。

さて、昨今の大学サッカーを取り巻く環境は、日本のサッカー発展と同様、急速に変化を遂げています。日本のサッカーは現在では世界の舞台の常連になり、現在、2022年開催のワールドカップにおいて、最終予選を戦

っていますが、恐らく本文が掲載されるころは本大会の出場が決まっている？ことでしょうか。

大学サッカーにおいても日本サッカー同様レベルアップが顕著で、我が蹴球部は2022年度の成績如何で、新設される「関東3部」に所属することを最低目標とし、更なるサッカーの質の向上を目指します。

その為には、まず体育会として「日々鍛錬による結果」は勿論ですが、今後も学生、OBが一体となった組織運営による「総合力」が重要視され、結果、組織運営ができない大学は必然的に淘汰される時代となります。我々は最低でも2022年度終了時点で関東3部でプレーできるよう学生、OB一体となって今シーズンを戦い最低目標を達成させる所存です。

最後に、コロナ禍のなか運営についてはより一層感染対策に注力し、結果、内容ともに充実した1年となるよう願うばかりであります。



寄稿 蹴球部 OB会 監督 宮下 尚磨(1985年卒)

水泳部 新年度強化団体に選出され抱負を語る



二期目の成蹊会スポーツ振興委員会の特別強化指定団体に体育会水泳部をご指定いただき、ありがとうございます。二期目となる4年間の目標は、水球班は「日本学生選手権・全国4位」、競泳班は「男子三部昇格」「女子二部上位入賞」を掲げております。

目標達成のため、水球班は、元オリンピック出場選手である志水祐介をコーチ招聘し、戦術・フィジカル面での強化に努めております。加えて、一部リーグ所属校との試合数、遠征数を増加させ、リーグ内で存在感を発揮できるよう努めて参ります。

競泳班は、泳ぎのフォームの改善を繰り返し、各自の専門種目でベ

ストタイム更新へ繋がりたいと考えております。インカレやジャパンオープン・日本選手権水泳競技大会などの日本トップレベルの大会出場に向けて、練習強化を図り、出場人数の増加を目指して参ります。

結果のタスクとは別になりますが、「世代を超えた繋がり」「成蹊大学の名を全国に」を心掛け、特別強化指定団体として、成蹊大学生の手本となる団体・学生になれるよう各々の意識を高く持ち、目標達成に向けて精進して参ります。引続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。



寄稿 蹊泳会 会長 木村浩三(1976年卒)

籠球部 新年度強化団体に選出され抱負を語る



この度、特別強化指定団体に選出いただきました体育会男子籠球部です。このような名誉ある団体に選ばれて大変光栄に思います。

2027年に100周年を迎える伝統ある団体である成蹊籠球会の一員として活動できていることに感謝し、これまで以上にOB会の方々と連携を取りながら日々向上に努めていきます。私たちは現時点でも様々な努力を尽くしていますが、リーグ戦で戦う相手である関東大学リーグの上位校の多くでは、スポーツ推薦などで優秀な選手を集め、専任コーチが指導しているという現状があり、そうした制度がない成蹊が、その中で優れた成績を収めるためには、何か新しいことに挑

戦することが必要であると日々感じていました。そこで今年度からは、先輩方が残してくださった学生中心となって主体的に部活動に取り組むというやり方は残しつつ、チームの強化とさらなる発展のためスキルコーチを依頼し指導を受けることで、目標である3部昇格、そして将来的には3部以上でも渡り合える実力をつけていきたいと考えています。特別強化指定団体の名に恥じない結果を残せるように努めていきますので、今後とも体育会男子籠球部の応援をどうぞよろしくお願いいたします。



寄稿 籠球部 主将 中嶋 康介

各OBOG会の「情報の受発信の強化」のお願い



年が明け、2022年度を迎えましたが、昨年11月に沈静化したように見えた新型コロナウイルス問題は、オミクロン変異株の出現によって、今まで以上に感染者が激増しており、子供や学生等若い人への感染も広がっています。1月末に学生部より体育会の学生に対して、「各運動部の感染防止対策マニュアルの再徹底」と「入学予定高校生への練習参加希望書（保護者署名必要）の提出義務」等感染防止活動の徹底が通達され、各OBOG会にも「感染防止指導徹底のお願い」（1/27、2/3付OBOG会長会通知メールで配信済み）が配信されました。

新型コロナウイルス問題が発生してから、3年目に入りますが、学生達は感染防止に対して、日々努力を重ね、部活動の円滑な運営に頑張っています。しかし、目標としてきた競技大会の中止や練習日の激減、部員同士の交流制限、新入部員の減少等厳しい活動制限が続き、部員のモチベーションの低下と部活動の不活性化が目に見えない中で浸透してきています。

また、対面交流を主に活動してきた各OBOG会においても、会議や会合の中止や学生に対する支援活動の停滞、学生達との対面交流や試合応援の激減等同様に、あらゆる活動が不活性化してきているのが現状です。

これらの学生達とOBOG会の活動の不活性化は、今後、大学体育会の発展にとって大きな弊害として影響し、全体の活動が衰退していくのでは？と心配しています。

このような状況下、情報の交流と共有が重要との判断から、OBOG会長会として、大学学生部のご協力のもと、SNSやオンライン会議等による情報受発信を強化してきました。

皆様の各OBOG会においても情報受発信を強化し、支援活動や学生達との交流を積極的に進めるようお願いします。大学学生部と体育会学生達と各OBOG会の三者一体の情報活動の活性化が最も必要な時期と思います。宜しくお願い致します。

寄稿 体育会OBOG会長会 会長 御厨 雅弘（1969年卒）

助言委員会の報告

学部職員・学生部・学生・OBOG 会長会により、2月15日（火）15：00 ZOOM 会議が行われました。境学生部長より下記報告がありました。

【リーダースキャンプ】

2月18日（金）9：40～16：00 ZOOM 河合先生・(株)ホープス坂井氏の講義が開かれます。

【体育会アンケート結果報告】※1

安全対策・部員勧誘・OB 会との関係・飲酒トラブル対策などのテーマで回答をもらいました。

【2021年度 体育会団体事故報告】※2

部の性格上、接触プレーが多いサッカー部・ラグビー部が多くを占めています。

【アスリートセミナーアンケート集計結果】※3

テーマは「本番で実力を発揮する為」、リーダーシップやチームビルディングについての講義があり有意義な座学であったとの意見が多数寄せられました。メンタルについての講義要望がありました。

【OB・OG 会長連絡協議会の活動】

現役に対する支援活動状況について、御厨会長より各部の金銭・スタッフなどの支援活動や体制基盤の報告がありました。部によって温度差がありますが、金銭面だけでなくアドバイスや指導を含めた支援が必要と考えます。近年、各学生スポーツ連盟の体制強化が見られ、それに伴い OBOG 会の支援活動が必要となってきています。現役と OB 会の密なる情報共有が求められます。

尚、※1～※3の資料ご利用の方は事務局へ連絡ください。

寄稿 体育会 OBOG 会長会 副会長 本間秀雄(1972 年卒)

令和4年体育会リーダースキャンプ開催される



2022年（第55回）体育会リーダースキャンプが開催されました。当日は150名を超える各クラブの学生が参加し Zoom により行われました。

学生部境部長のご挨拶の後、河合校医による課外活動リーダーリーダーとして理解しておくべき障害・外傷の予防、早期発見・治療、熱中症、脳震盪、超回復の理論、練習量・強度とオーバートレーニング等の講演があり、(株)ホープス坂井伸一郎社長による「チームビルディング」と題し、チームメンバーに必要なものは何か。目標を達成するために共に戦う仲間となる資格を持った集まりであると講義を受けました。

OBOG 会長連絡協議会御厨雅宏会長から会の説明が行われ昼食をはさみ体育会本部による新体制による各局の本年度の抱負を説明し、体育会本部所属各部の課題についてグループディスカッションが行われました。更に成蹊会から「スポーツ振興助成金」の募集と申請について説明が行われ、最後に学生部から連絡事項が行われ16時閉会となりました。

寄稿 体育会 OBOG 会長会 副会長 木村明彦 (1969 年卒)

Information 重要なお知らせ

■お知らせ

- 次号 SMAnews 30号（4月～6月）は、6月25日頃発行予定です。
各クラブの活動状況のアピールのためにこの紙面を活用ください。

掲載責任者 木村明彦